



新年のご挨拶

理事長 **宇野 貞人**

2015 年を迎え、会員の皆様はどのような年になることを祈念されたでしょうか。

世界情勢を見ると、イラク、シリア、北アフリカで毎日多くの犠牲者を生む戦争状態が続き、ウクライナの戦火も収まっていません。いずれも背景には民族、格差、貧困という問題が潜んでいます。私たちが直接支援しているネパール、タイ、インドでの地域にもいまだ同様の火種が厳然として存在しています。国際社会が混乱する中で、今年は NGO/NPO による支援活動が一層望まれる年となるでしょう。

私たちが今支援している地域は、そもそもどうして支援するようになったのでしょうか。私たちの先輩がそれらの地域で、貧困とりわけ子供の貧困の改善に懸命に取り組んでいる方々と知り合い、その活動に感動して支援を始めたのです。出逢いは人と人の繋がりからです。

ネパール支援は、垣見一雅 (OK バジ) さんの講演を当法人の前身いきいきフォーラム 2010 の元理事長川橋幸子さんが聞いたことが始まりです。OK バジの活動は多岐にわたりますが、私たちは子供の教育を中心に支援しています。これは、日本では江戸時代から教育がかなり行き渡り、明治時代には義務教育制度が確立した結果、現在の日本の姿があると考えたからです。その過程を経済的に支えたのが生糸などの輸出特産品でした。ひるがえってネパールを見ると、学校教育はまだ普及途中です。全ての子供たちが教育を受け、自国の将来を自身で考えられる人材の養成が進めば、貧困から抜け出られるのではないのでしょうか。しかし残念ながら、この国にはいま観光以外にこれと言える特産品がありません。工場の進出も難しいでしょう。学校教育の普及は NGO/NPO の支援なくして進まないのが現状です。

同様に、タイではむかし他国から移住してきた少数民族が北部山岳地帯に多く住んでいます。しかし、タイ国籍がないために、満身に教育もうけられず、貧しい生活を強いられました。私たちは、松戸市の中学校教諭榎本正文さんを通じて知った子供たちの寄宿寮「ひよこホーム」を支援しています。少数民族ラフ族の子供たちが、国籍取得条件の一つであるタイ語の習得と義務教育修了をめざして通学するための寮です。先生の教え子さんたちが運営する FOREST21 と協力して支援しています。いま寮生から優等生が数人であるほどみんな勉学に励んでいます。

インドは近年、国の経済成長は著しいですが、厳しいカースト制度のもと、低カーストや非接触民の子供たちは満足な教育をうけることが出来ず、貧しい生活を送ってきました。元 JOFIC 代表坂田喜子さんを通じて知った SEDS は、貧しい低カースト地区で広く地域開発を支援、女性の授産事業や学校も運営しており、私たちは子供たちが健全に成長するための栄養補給と教育支援をしてきました。国が豊かになってきたためか、栄養補給は国の事業として引継がれました。

昨年からは国際支援とは分野が違いますが、国内にも眼を向けて、現状をよく知る福島出身の理事さんの情報をもとに福島原発事故による放射線被曝を心配して思い切り外遊びのできない子供たちへの支援も始めました。

今年も、これらの支援先に継続支援していくとともに、同様の支援活動をしている他の NPO 団体などと交流をしながら、より良い支援活動の在り方を学んで行きたいと考えております。皆様の忌憚ないご希望やご意見をお聞かせいただきたいと思います。

今年も引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

2015 年 1 月

(1) 垣見一雅 (OK バジ) さん「ヘルシー・ソサエティ賞」受賞決定

新年早々、嬉しいニュースが飛び込んできました。それは、OK バジが第 11 回「ヘルシー・ソサエティ賞」を受賞されることです。同賞は、よりよい明日にむけ健全な社会と地域社会の幸せを願い、国民生活の質の向上に多大な貢献をした人々を称える目的で、また他者への思いやり、人々のために奉仕するという日本のよき伝統を奨励することも目指して、公益社団法人日本看護協会と世界的企業ジョンソン・エンド・ジョンソングループが共催して創設したものです。

賞は、3 つの部門—教育者部門、ボランティア部門、医療従事者部門—からなり、今回は 50 名以上の候補者の中から 6 名が選ばれました。その一人が OK バジで、ボランティア部門での受賞者です。受賞者選考には、元東京大学総長有馬朗人さん、聖路加病院名誉院長日野原重明さんなどが当たっている大変名誉ある賞です。

受賞に当っては、NPO 法人 2050 の理事長北谷勝秀さんと日本訪問看護財団理事長清水嘉与子さんの強力なる推薦が効を奏したとのことです。

授賞式は、3 月 25 日に東京で開催されます。OK バジは、当法人のネパールツアーに 15 日まで帯同いただいた後、2 グループのツアーに対応してから、3 月 21 日にネパールを発ち、授賞式に出席して 4 月 3 日に戻られるとのことです。授賞式には、当法人の宇野理事長も出席予定です。

(2) 平成 26 年「寄附金受領証明書」の発行

平成 26 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日までの期間に皆さまからいただきました当法人への寄附金（会費は含まず）の額を証明した書類を 1 月 21 日付けで発行いたしました。既にお手元に届いていると存じますが、2 月 16 日から始まる平成 26 年分の所得税の確定申告の際、税額控除を申請するために必要な書類ですので、紛失しないよう十分ご注意ください。

もし、証明書記載のお名前、ご住所、数字などに間違いがある場合には、お手数ですが直ちに当法人事務局の方にご連絡ください。訂正した証明書を改めて発行申し上げます。

また、認定 NPO 法人への寄附に係わる住民税控除は、都道府県、市区町村によって対応が異なりますので、詳細はお住まいの市区町村にお尋ねください。

《編集後記》今年は第二次世界大戦後 70 年目。年頭の新聞で今の日本をどう捉え、どのような将来を目指すべきか、様々な分野の人が語っていました。その中に、「地域共同体を担ってきた中間層がすっかりやせ細ってしまった。・・市民は公共サービスを消費する顧客になってしまった。」（哲学者・鷲田清一さん）、「共同体の力って、生きるために一日たりとも免除されない営みを、みんなで助け合ってやることで強くなり、鍛えられていく。ところが日本の郊外住宅地は職住分離で・・消費しなくなりってしまった。」（社会学者・大澤真幸さん）、「この 20 年間の IT の急速な発達と普及が、日本社会を新しい段階に突入させた。他者への関心と思いやりに欠け、自分に閉じこもる人たちを増やした。」（人類学者・川田順造さん）と日本の共同体の揺らぎ・崩壊を指摘する意見が見られました。私たちが支援している地域では、まだ地域共同体が健在です。日本での再構築に何らかのヒントが見出せると良いのですが、今年も、当法人の活動状況、支援先の様子などをタイムリーにお伝えしていきますので、ご一読のほどよろしく願いいたします。（編集担当：KT）

雪吊りの中の落日まぶしめり 新田裕久

認定 NPO 法人 いきいきフォーラム草の根支援

〒113 - 0023 東京都文京区向丘 1 - 7 - 8 コミュニティ・スペースほのぼの内

TEL/FAX 03-3816-5346 E-Mail f-kusanone@tcn-catv.ne.jp

<http://www1.tcn-catv.ne.jp/ikiiki-kusanone>